



### この号の内容

- 1 本学期的成績評価について
- 2 オンライン授業で、いま学生たちが困っていること

### 【本ニュース発行主体】

HOSEI2020 オンライン授業支援特設チーム

(教学統括副学長のもとに2020年度のオンライン授業を支援する目的で設置)

### 【事務局】

総長室付教学企画室

## 本学期的成績評価について

5月29日付で、以下のアナウンスがHPに掲載されました。

「今後も原則として本学期末までオンライン授業を継続することから、本年度春学期は、大学として期間を定めた定期試験を実施しません。本学期的成績評価の方法は、授業を担当する教員が定め、各科目の「学習支援システム」に提示しますので、確認ください。」

Google Classroom など主に他のツールを利用されている場合も、かならずご担当科目の「学習支援システム」に(も)成績評価の方法について記載いただき、あわせて、どこに記載されたかについて学生に通知いただきますよう、お願いします。

## オンライン授業で、いま学生たちが困っていること

今、学内の様々な回路で、オンライン授業で困っている学生たちの声が届いています。ぜひ耳を傾けてみてください。

### ●先生と連絡が取れなくて困っている

→科目担当教員への連絡方法がわかりませんと、学生は事務課に連絡するしかなく、事務課の過負担が生じます。科目受講生との連絡方法について、学習支援システムの「お知らせ」を通じて、受講生にお伝えいただけますようお願い致します。

### ●教材のダウンロード期間や課題提出期間が2～3日と短すぎて、通信環境にトラブルが生じると間に合わない場合があり、困っている。

→学生側の通信環境には、学生の責に帰せられないトラブルがしばしば発生しますので、ご配慮いただけたらと存じます。

### ●科目によって課題や教材があちこちに提示されるので、毎日注意していても必要な情報の見落としがありそうで、つねに不安である。

科目により、学習支援システム、Google Classroom など異なるツールが用いられたり、同じ学習支援システムを用いながらも、教員・科目によって「お知らせ」「課題」「教材」「テスト」など異なる場に教材・課題の配信がなされる、といった実態があることで、学生たちは、常に何か取りこぼしていないかと不安を抱え、また、情報を確認しに行くために通信量を消費するのが厳しいとの声もあります。 →次のページへ

→特に1年生はまだ学生同士で情報交換する関係も乏しい現状であり、ツールやシステムの利用にも不慣れですので、あらたな課題・教材を配信された場合には、学習支援システムの「お知らせ」に（も）記載いただき学生にお知らせいただくなど、受講生との間で、課題・教材の配信に関して明快なルールを設けてくださいますよう、お願いします。

### ●課題が本当に提出できているか、読んでもらえているかわからず、不安である

→教員に会って確認できない環境では、提出課題が本当に届いたか、読んでもらえたか、自分のレポートはどうであったかと、不安を抱きがちです。以下などご参考にしていただけたら幸いです。

→学生が学習支援システム上の「課題」からレポートを提出すると、提出確認のメールが学生の大学メールアドレス宛に届く仕組みになっています。以下が学生版「学習支援システム」マニュアルの該当ページ

<https://hosei-kyoiku.jp/wp->

[content/uploads/2020/05/%E2%91%AC%E3%80%90%E6%8E%88%E6%A5%AD%E7%94%BB%E9%9D%A2%E3%80%91%E8%AA%B2%E9%A1%8C.pdf](https://hosei-kyoiku.jp/wp-content/uploads/2020/05/%E2%91%AC%E3%80%90%E6%8E%88%E6%A5%AD%E7%94%BB%E9%9D%A2%E3%80%91%E8%AA%B2%E9%A1%8C.pdf)

→学習支援システムの「課題」ページでは「コメント」機能で、「テスト」ページでは「採点およびフィードバック」で、それぞれ学生にフィードバックすることができます。大人数授業など、全員に個別フィードバックすることが困難な場合には、いくつかの課題・回答を抽出して紹介されるなど、なにかしらのフィードバックの方法を検討いただけたらと存じます。

### ●通信接続が不安定なため、授業参加に遅れることや、講義が聞き取れない時があり、困っている

→web 会議システムでは、自分の声が相手にどのように届いているかが分からないのですが、音声圧縮などの影響で、時々とても聞き取りにくくなるようなことがあります。レクチャーの際には、特に重要なことは、ゆっくりと繰り返しお話いただくよう、心がけていただけたらと存じます。

また Zoom、Webex、Google Meet とも、自分がホストになっていれば、録画・保存が可能ですので、後日学生に見せる必要が生じたとき提供する目的で、念のため録画・保存しておくことも1つの方法です。録画ファイルは、Google Drive（容量無制限）に保存し、学生に共有権限を付与することもできます。

### ●全ての講義で大量の課題が出るので、毎日課題に追われていて、精神的にきつい

→特に資料配信型の授業の場合、指定教材を読んで課題に取り組む形になることが多いと思います。2単位の単位修得に90時間の学習が想定されていることにかんがみ、課題をお出しいただいていることと思いますが、同時に学生側では1学期に20単位程度、1週間に10科目程度を受講している実態もあります。学生たちの認識の甘さもあると思いますが、学生側の受講状況も一定程度勘案いただき、1科目の課題ボリュームについてご考慮をいただけたらと存じます。

### ●家にプリンターが無く、資料印刷のたびにコンビニでプリントしているが、経済的に厳しい

→キャンパスに通学できれば大学のプリンターを使用できますので、家にはプリンターを置いていない学生は相当割合にのぼると考えられます。資料を配信される場合には、できるだけ印刷しなくても授業参加できるようご配慮いただけたらと存じます。

### ●指定された資料を読んで課題を提出するだけの授業では、学んでいる実感がもてず悩んでいる

→本ニュース vol.1 でお伝えしておりますように、「文部科学省がこれまで示してきたオンライン授業で単位認定が認められる条件」には、「課題提示の前後で教員からの指導や学生と教員との質疑応答の機会が確保されていること」があります。資料の読解から学習できることは多々ありますが、そのことにより多くの学生が気づけるためにも、先生方におかれましては、資料(教材)と学生の媒介として、資料の読み取り方や、複数の資料の結びつけ方などについて、解説やコメントの形で、ご指導を提供いただけたらと存じます。

●周りの状況が分からないので、ほかの人がどんなふうレポートを書いたのか知りたい。

**授業や課題がわからなくても、聞ける友人や先輩がいないため不安である**

→特に1年生の場合、学生間で授業に関する情報交換をするための人間関係がまだほとんど築けていないと考えられます。そこで、各授業におかれましても、様々なコミュニケーションの工夫をご検討いただけたら幸いです。

例えば、学生支援策としての学生アシスタント制度を活用いただき、コミュニケーションの円滑化を図られたり、大規模授業では、提出課題のフィードバック時に(事前の学生との了解のもとで)参考になる例を紹介されるなどの方法も考えられます。小規模授業では、学習支援システムの掲示板や Zoom, Webex などでのコミュニケーションの機会を設けることも可能です。学生間に一定の信頼関係が構築されつつある演習形式などの小規模授業では、授業終了時点で、担当教員がリーダー格の学生に「ホスト」を任せ(渡し)て、教員は先に退出し、学生間だけのコミュニケーションの機会を設ける、といったことも行われています。

以上